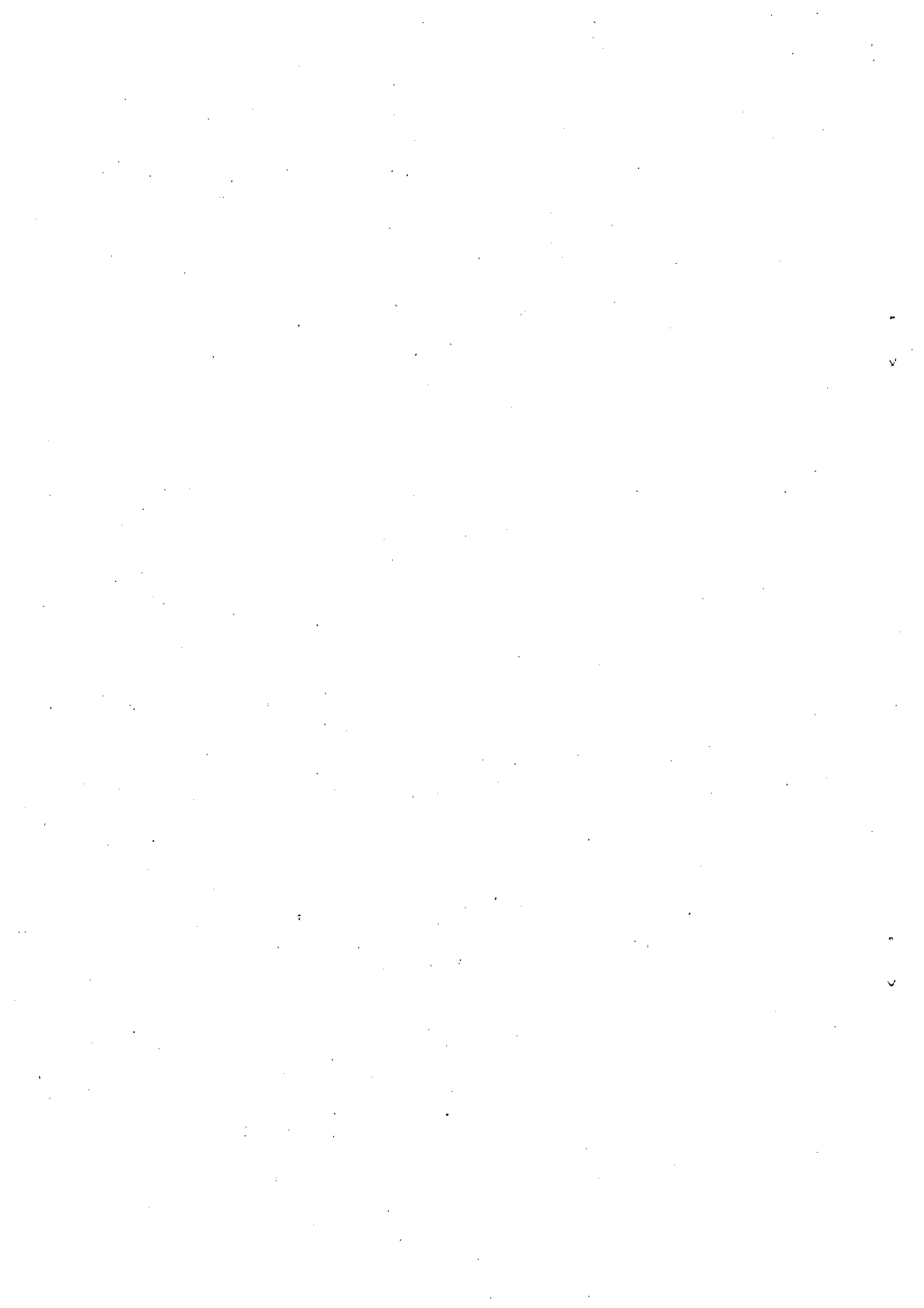


農林水産商工常任委員会提出資料

(平成28年4月21日)

項 目		ページ
1	農業大学の学生及び研修生の動向 【農業大学校】	1
2	第10回食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議の開催 結果について 【とっとり農業戦略課】	2
3	農研機構ナシ育種研究鳥取拠点（仮称）の設置について 【とっとり農業戦略課、園芸試験場】	別紙
4	新たな「協同農業普及事業の実施に関する方針（平成28～32年 度）」の策定について 【とっとり農業戦略課】	4
5	東京芸術劇場での「木育・移住定住」とっとりPRイベントの実施 について 【林政企画課】	5
6	協同組合レングスのCLTのJAS認定について 【県産材・林産振興課】	6
7	「第58回鳥取県しいたけ品評会」の開催について 【県産材・林産振興課】	7
8	「とうほくとっとり・苗木の里帰りプロジェクト」の実施について 【森林づくり推進課】	8
9	第61回鳥取県植樹祭の開催について 【森林づくり推進課】	9
10	平成27年度 第5回 湖山池会議の開催概要について 【水産課】	10
11	とっとり・おかやま新橋館の運営状況について（H28年1月～3月） 【販路拡大・輸出促進課】	11
12	一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【水産課】	13

農 林 水 産 部



農業大学の学生及び研修生の動向

平成28年4月21日
農業大学校

1 養成課程

主に高卒者を対象とし、修業期間は2年間。

(1) 応募者・入学者の状況

入学者数は、定員30名に対し平成23年度以降25名前後で推移している。
専攻別では、毎年野菜コースの学生が多く、今年度は畜産コースの学生が多い。

単位:人

入学年度	23	24	25	26	27	28	
応募者数	48	32	29	29	25	26(1)	
入学者数	果樹	2	5	7	6	5	3
	野菜	10	9(1)	8	8	9(1)	8
	花き	3	6	1	3	1	1
	作物	5	3	6(1)	4(1)	4	2
	畜産	6(1)	3	3	2	4	7
	合計	26(1)	26(1)	25(1)	23(1)	23(1)	21

注:()は、社会人特別入学(但し内数)

(2) 卒業生の進路

非農家出身学生が多い状況の中、新規就農を含めて農業法人等への雇用による就農を推進しており、近年の就農率は50%前後で推移している。今春の卒業生は自営、雇用就農者を含めて、就農率は61%となった。

単位:人

区分 \ 卒業年度	22	23	24	25	26	27
就農 (a)	0	0	1	2	4	2
農業法人等 (b)	5	10	11	9	11	8
研修等の後就農 (c)	3	3	0	0	1	1
就職	10	12	10	9	3	5
進学	1	1	1	0	0	0
未定	2	1	0	2	1	2
合計 (d)	21	27	23	22	20	18
就農率 (a+b+c)/d	38%	48%	52%	50%	80%	61%

2 研修課程

平成27年度に研修体系を見直し、校内実施によるスキルアップ研修及び農家派遣による先進農家実践研修として自営就農型の1年研修がスタートした。

単位:人

研修区分	応募者数	受講者						継続者	修了者	就農者
		果樹	野菜	花き	作物	畜産	計			
スキルアップ研修	10	3	5	1		1	10	2	7	7
先進農家実践研修	2	2					2	2	-	-

※(定員)スキルアップ研修:15名/2回・年間、先進農家実践研修:5名/回

3 アグリチャレンジ研修(公共職業訓練)

平成27年度新規事業として開始し、現在2期目を実施中。2回とも定員に近い受講者が入校し、第1期では修了者18名のうち14名が就農し、就農率は78%であった。

単位:人

	訓練期間	募集定員	応募者	合格者	入校者	修了者	就農者
第1期	H27.11.5 ~ H28.1.29	20	20	20	19	18	14
第2期	H28.2.10 ~ H28.4.28	20	22	19	18	-	-

※就農者は就農に向けて引き続き何らかの研修を受講する者を含む。

第10回食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議の開催結果について

平成28年4月21日
とっとり農業戦略課

平成28年2月5日に署名がなされたTPP協定にかかる県内農林水産業への影響と対応について検討を行うとともに、分野別長期ビジョンの取組状況を点検するため、標記PT会議を開催しました。

1. 会議開催概要

- (1) 開催日時 平成28年4月4日(月) 13:30~15:30
- (2) 場 所 県庁特別会議室
- (3) 出 席 民間有識者(生産者団体、商工団体等)、大学、町村長会、農林水産部長
- (4) 概 要

①テーマ

○「TPP協定の動向(影響と対策)」

TPP協定発効による県内農林水産物への影響、及び必要となる対応について意見交換を行った。

- ・多くの県内農林水産物への影響が懸念されること
- ・国TPP対策予算を積極活用していくこと
- ・県独自対策(2月臨時、28年度当初予算)を早期に執行していくこと

○「各長期ビジョンの取組点検と今後の対策」

分野別長期ビジョンの進捗確認を行うとともに、今後の検討課題について意見交換を行った。

- ・農業活力増進プラン(平成27年3月策定)
- ・森と緑の産業ビジョン(平成26年5月策定) 等

②出席者からの主な意見

- ブロッコリーは米国からどのような形で入ってくるかわからない。より付加価値を高めて出荷する方策が必要(JA西部)。
- 合板材についてもTPPの影響による価格低下を懸念(県森林組合連合会)。
- TPP発効によって酪農家の生産意欲を削がないよう、経営安定対策を含めた対策強化について国に要望すべき(鳥取畜産農協)。
- 国TPP対策(畜産クラスター、産地パワーアップ事業等)の予算が不足。国に予算確保を要望すべき(JA鳥取中央、鳥取畜産農協)。
- GABA米(※)の施設整備により、米の付加価値を高めていくことも考えたい(JA西部)。
(※)「γ-アミノ酪酸」を豊富に含んだ米

2. 今後の対応

- 国TPP政策大綱の着実な実行、及びより精緻なTPP影響把握を行うよう国要望を行う。
→4月14日、農林水産省へ要望活動を行った。

- ・国内農林水産業への影響を慎重かつ精緻に検証すること
- ・国の責務において、緊急的かつ長期的視点に立った国内農林水産業対策を講じるとともに、27年度補正予算事業のさらなる予算枠確保、本県への予算配分を図ること

- 各長期ビジョンの目標達成に向け対策を推進するとともに、国対策(中長期的対策含め)の活用を視野に必要となる県対策の検討を進める(→ビジョン見直しにも反映)。

各長期ビジョン目標指標のH27実績(主なもの)

(※以下目標指標は主なものです。また現段階では暫定値であり、今後精査を進めます)

区分	主な目標指標		H26数値	H27実績	到達目標		
						目標年次	
農業 活力 増進 プラン	新規就農者の確保		123人/年	136人/年	200人/年	H35	
	きぬむすめの作付面積		2,371ha	2,811ha	3,000ha	H30	
	果樹新品種(梨)の作付面積		138ha	166ha	200ha	H35	
	産出額10億円以上の品目数		8品目	9品目 (H26)	10品目	H35	
	産出額1億円以上の新規品目数		—	—	5品目増加	H35	
	和牛増頭	和牛繁殖雌牛の増頭		2,900頭	3,000頭	5,000頭	H35
		肉牛出荷頭数の増加		3,400頭	3,300頭	5,000頭	H35
	「鳥取和牛オレイン55」の発生頭数		353頭	427頭	1,000頭	H35	
	生乳生産量の確保		5.6万トン	5.6万トン	6.0万トン	H35	
	農場HACCP認証農場		ゼロ農場	1農場	10農場	H35	
	農地保全 活動	「共生の里」協定締結件数		5地区	8地区	10地区	H35
		多面的機能支払交付金の 取組面積(農地維持支払)		40%	45%	60%	H35
	農林水産物等の年間輸送額		4.5億円	(確認中)	9億円	H33	
学校給食用食材の県産品利用率		71%	73%	さらなる向上	H35		
とっ と と り 森 と 緑 の 産 業 ビ ジ ョ ン	素材生産量		18.7万㎡	(確認中)	38万㎡	H32	
	間伐面積		3,050ha/年	(確認中)	4,200ha/年	H32	
	森林経営計画策定率		39%	41%	80%	H32	
	原木生しいたけ生産量		37t/年	48t/年	91t/年	H32	
	原木乾しいたけ生産量		17t/年	15t/年	24t/年	H32	
	薬用きのこ実用化		0種類	0種類	3種類	H32	
豊 か な 海 づ く り プ ロ ジ ェ ク ト	沖合漁業漁船「代船建造数」		11隻	12隻	13隻	H30	
	漁業関係就業者数		129名	183名	288名	H30	
	高度衛生管理型市場・漁港の整備 「完成年度」		国が「境港地区高度 衛生管理基本計画」 「特定漁港漁場整備 事業計画」を公表	基本設計を完成させ、 実施設計・用地買収 に着手	目標年次よりもできる だけ早期に	H35	

新たな「協同農業普及事業の実施に関する方針（平成28～32年度）」の策定について

平成28年4月21日
とっとり農業戦略課

「協同農業普及事業」は、農業改良助長法に基づき国と都道府県が協同で実施する事業です。

当事業の実施に当たっては、農林水産大臣が基本的な事項を「協同農業普及事業の運営に関する指針（以下「運営指針」）」として概ね5年ごとに定め、これに独自の取り組みも盛り込みながら各都道府県「協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」）」を定めることとされています。

平成27年5月に、国が新たな「運営指針」の告示を行ったことから、本県も内容の検討を進め、新たな「実施方針（平成28～32年度）」を策定しました。

1 新たな国「運営指針」、県「実施方針」の策定概要

	国 「運営指針」	県 「実施方針」
定めるべきとされる事項	<ul style="list-style-type: none"> 普及指導活動の基本的な課題 普及指導員の配置に関する基本的事項 普及指導員の資質の向上に関する基本的事項 普及指導活動の方法に関する基本的事項 その他協同農業普及事業の運営に関する基本的事項 	<ul style="list-style-type: none"> 普及指導活動の課題 普及指導員の配置に関する事項 普及指導員の資質の向上に関する事項 普及指導活動の方法に関する事項
今回の策定のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○国と都道府県の役割の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・国 - 県間連携、資格試験実施、研修の実施、等 ・県 - 人員確保、外部評価の実施、等 ○各都道府県に外部評価の実施、結果公表を義務づけ ○公的機関として担うべき分野の取り組みを強化 <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者支援、地域の合意形成、等への対応 ○民間活力の活用を推進 ○各都道府県に人材育成計画の策定を義務づけ ○研究開発への普及組織の参画促進 ○先進的な農業者とのパートナーシップの構築を推進 	<p>左記を反映の上、本県は以下を追加して明記</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普及活動が対象とする主要課題を明確化。なお、「鳥取県農業活力増進プラン」を着実に進行するため、当プランに基づく普及指導活動を展開するよう冒頭に記載 ○多様な担い手育成を最重要のテーマと考え、関係機関と連携しながら普及活動の機能を最大限に発揮し、実現することを目標化 ○普及活動の高度化をより一層進めるため、活動手法の中にICT（情報通信技術）を導入し、効果の高い普及活動の実現に向けた検討を進める点 ○平成24年度に新設した「総合支援班」を、新規就農者対応と6次化推進の窓口とするにとどめず、普及活動における農業の担い手対策全般の中核として機能することをねらいに体制を構築した点

2 本県「実施方針」策定の経過

普及員代表者等によるワーキンググループにおいて原案を作成し、普及所長会議等で繰り返し議論と修正を重ね、「実施方針」（案）を作成した。

当案を基に、市町村、農業団体等の関係機関に対し意見照会を実施、修正を加え完成した。

3 新たな本県「実施方針」の取り扱いと推進

- (1) 完成した「実施方針」を国に報告。また、関係機関にも周知し、本県HPでも公表する。
- (2) とっとり農業戦略課（研究・普及推進室）は、当方針に従い、現場からの要請に基づく高度な専門的課題の解決に取り組むと共に、継続して普及組織体制の点検や普及員の人材育成活動を推進する。
- (3) 各農業改良普及所は、各地域の農業・農村振興上の課題解決や、「鳥取県農業活力増進プラン」の推進等に的確に当たれるよう、課題ごとの取り組みを具体化した「普及活動計画」を毎年度作成、これに従い栽培にかかる新技術や経営改善の現地指導等を実施する。

東京芸術劇場での「木育・移住定住」とっとりPRイベントの実施について

平成28年4月21日
林政企画課

本年1月に東京芸術劇場で開催した県主催の移住イベントの際に展示した県製作の「木育広場」は、たくさんの方に鳥取の木の良さ、温かさを体感していただき大変好評でした。その後、東京芸術劇場より、5月の劇場イベントに併せて「木育広場」出展打診があり、「木育広場」をはじめ、鳥取県産材で作った製材品紹介や移住定住相談コーナーなどを設置し、「木づかいの国とっとり」を情報発信します。

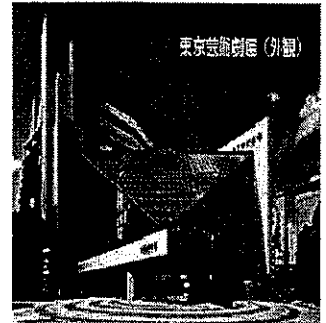
1 日時 平成28年5月5日(木・祝日)～8日(日) 11:00～17:00
(TACT/FESTIVAL/国際児童少年演劇フェスティバル期間中)

2 場所 東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋)

3 実施主体

主催 鳥取県

共催 鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会、(公財)ふるさと鳥取県定住機構
(公財)鳥取県林業担い手育成財団



4 来場見込数 3,000名

5 展示概要

(1) とっとり赤ちゃん木と森の広場(木育広場)の出展

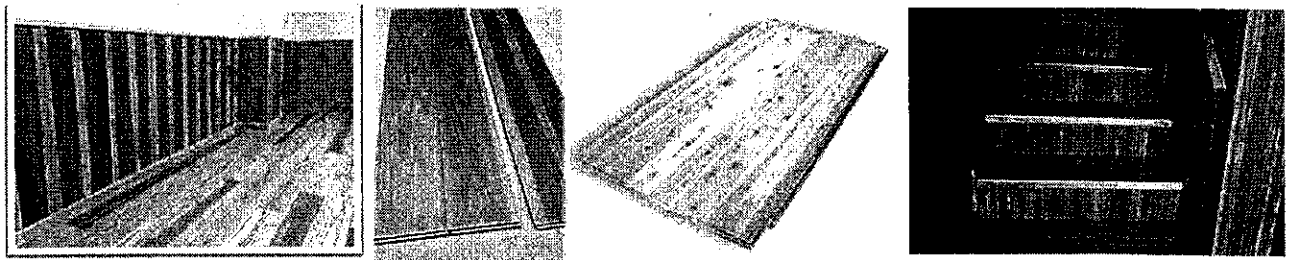
赤ちゃんが木と触れ合える木育スペース「木育広場」を出展。木の良さ、温かさを体感していただく。



▲H28.1.23,24東京芸術劇場に設置した木育広場(3.6×5.4m)の様子

(2) 木づかいの国とっとりコーナー

と通りの風土が刻んだ木のぬくもりあふれる県産材製品等を紹介するブースを設置。併せて来場者へアンケートを実施。



▲

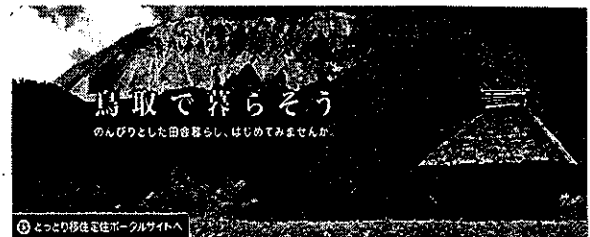
腰板・床材/鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会

▲Jパネル/(協)レン

▲VL/(株)オロチ:

(3) 鳥取県への移住定住促進

子育てを応援する鳥取県への移住に関する情報提供コーナーの設置。



(4) 森林保全活動に貢献された企業の紹介

鳥取県内で企業が行う森林保全活動や、県内J-クレジットを購入していただいた企業等の紹介ブースの設置。



協同組合レングスのCLTのJAS認定について

平成28年4月21日
県産材・林産振興課

協同組合レングス（南部町）が、平成28年3月31日に直交集成板（CLT）のJAS認定を取得しました。木材利用の拡大につながる新たな建築用資材として注目されているCLTのJAS認定工場は、レングスが全国3番目となります。

※CLT：Cross Laminated Timber の略

1 JASの種類 直交集成板（CLT）

2 認定機関 （公財）日本合板検査会

※農林物資の規格化等に関する法律（JAS法）に基づく登録認定機関の一つであり、合板、集成材、直交集成板等にかかるJAS工場の認定を行っている。

3 直交集成板（CLT）の認定工場 （平成28年3月31日現在）

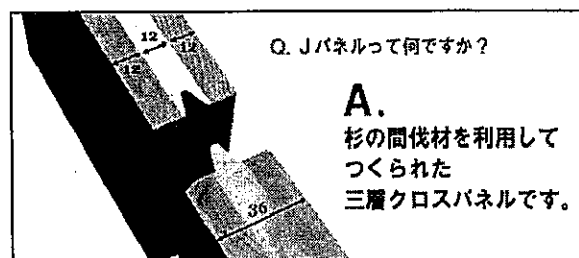
認定番号	工場名	所在地	認定日
1	銘建工業株式会社 本社工場	岡山県 真庭市	H26. 6. 5
2	山佐木材株式会社 ろんじ論地工場	鹿児島県 肝属郡肝付町	H26. 6. 30
3	協同組合レングス 本部工場	鳥取県 西伯郡南部町	H28. 3. 31
4	ウッドエナジー協同組合 集成材工場	宮崎県 日南市	H28. 3. 31

4 県の支援

- ・ JAS認定取得経費の支援
→ H26（繰越）鳥取県CLT生産支援プロジェクト事業（補助率1/2、400千円）
- ・ 林業試験場による乾燥技術指導
→ JAS認定されるためには、含水率が安定したラミナ（ひき板）の製造が不可欠であり、乾燥機内の空気の流れの調整や比較的強度に乾燥を行うなどの技術指導を行った。

（参考：協同組合レングスの概要）

- （1）設立 平成9年9月
- （2）所在地 鳥取県西伯郡南部町法勝寺70
- （3）従業員数 約20名
- （4）製品生産量及び原木使用量
 - ・ 製品生産量：約200m³/月
 - ・ 原木の調達：原木使用量 約600m³/月



「第58回鳥取県しいたけ品評会」の開催について

平成28年4月21日
県産材・林産振興課

原木しいたけの生産技術の改善と品質の向上、県産椎茸ブランドの向上と消費拡大を図るため、「第58回鳥取県しいたけ品評会」を開催します。

- 1 開催日時
平成28年5月29日（日）午前10時～午後3時
- 2 開催場所
鳥取西部農業協同組合本所（米子市東福原一丁目5-16）
- 3 主 催
全国農業協同組合連合会鳥取県本部・鳥取県椎茸生産組合連合会・鳥取県
- 4 日 程

	時間・場所	主な内容
展 示	午前10時 ～午後3時30分 5階 2、3会議室	県下全域より出品された乾しいたけ約100箱（予定）を一堂に展示 ※一般県民の皆さんも見学可能です。
表 彰 式	午後2時 ～午後3時30分 5階 大会議室	品質の優秀な出品物22点を表彰 最優秀：林野庁長官賞2点、鳥取県知事賞4点 優 秀：全農鳥取県本部長賞8点、日本きのこセンター理事長賞8点 等 ※入賞した出品物は、埼玉県で6月15日（水）に開催される第49回全農乾椎茸品評会に出品されます。
その他イベント	午前10時 ～午後3時30分 JA 鳥取西部本所玄関前駐 車場 5階 表彰会場	・原木椎茸栽培に必要な技術・経営の相談窓口を設置 ・米子白鳳高校による淀江さんこ節の上演 ・「しいたけバーガー」ほか乾椎茸加工品等の販売 ・小学生が描いたしいたけの絵画展示

（参考）

第48回全農乾椎茸品評会の結果（平成27年6月16日 石川県で開催）

- ・団体表彰：団体準優勝（団体準優勝は8回目、団体優勝は過去4回）
- ・個人表彰：農林水産大臣賞1点、林野庁長官賞2点を含めて8点入賞

「とうほくとっとり・苗木の里帰りプロジェクト」の実施について

平成28年4月21日
森林づくり推進課

本県では、平成24年度に東北三県から託された種子を県内で育成し、その苗木を東北へ里帰りさせる取組を、平成25年5月26日に開催した第64回全国植樹祭において東日本大震災の復興支援の一助として全国発信するとともに、被災地の方への励ましと支援の輪の拡大を図ってきたところです。

平成28年度も、平井知事をはじめ米子市立車尾小学校及び南部町立会見第二小学校のみどりの少年団の代表が苗木(コナラ1,000本)を里帰りさせます。また併せて「第9回いわての森林の感謝祭」での記念植樹に参加します。

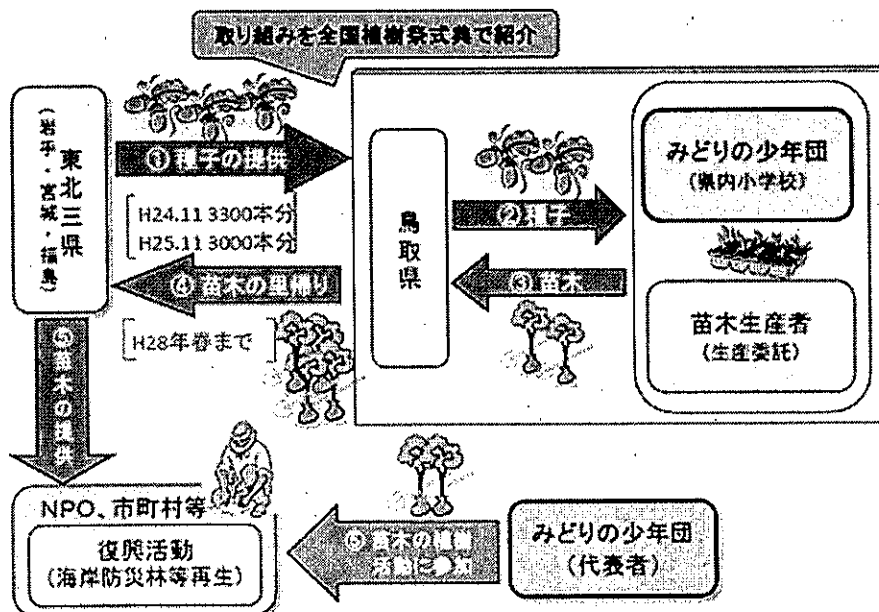
1 「第9回いわての森林の感謝祭」の概要

- (1) 日 時 平成28年5月14日(土) 午前10時から正午まで
- (2) 場 所 岩手県九戸郡洋野町
- (3) 主 催 岩手県、洋野町、(公社)岩手県緑化推進委員会
- (4) 参加者 一般県民等 約400名
鳥取県：平井知事、米子市立車尾小学校(4名)及び南部町立会見第二小学校(5名)

2 これまでの経過

- (1) 平成24年度に東北三県から託された種子を、県内のみどりの少年団結成小学校で育成を行うなどして、広く県内に支援の輪を広げる取組をスタート。
- (2) 第64回全国植樹祭において、平井知事・みどりの少年団から東北三県の代表者へ苗木の目録を贈呈。
- (3) 育てた苗木は、平成25年度から東北三県で開催されている復興植樹活動に提供するとともに、知事やみどりの少年団の代表が植樹活動に直接参加し、全国から集まったNPO等と共に復興を支援するとともに、県内におけるとっとりグリーンウェイブの更なる展開に繋げている。
- (4) 岩手県への苗木の里帰りは今回が最終年。

※宮城県への苗木の里帰りはH27年度で完了、福島県への本年度の里帰りは調整中



第61回鳥取県植樹祭の開催について

平成28年4月21日
森林づくり推進課

森林の役割や大切さ、森・川・海のつながり、農林水産業との関連性等について情報発信し、植樹活動等を通じて、広く森林づくり活動に県民参加を呼び掛けるとともに、第64回全国植樹祭の成果を継承し、「とっとりグリーンウェイブ」の気運を更に高めるため第61回鳥取県植樹祭を開催します。

- 1 テーマ 「誇りたい ホタル舞う森 生きる山」
- 2 日時 平成28年5月29日(日) 10時～15時
- 3 場所 日野郡日南町生山 道の駅「にちなん日野川の郷」
- 4 主催 鳥取県、日南町、公益社団法人鳥取県緑化推進委員会
- 5 協力 日南町森林組合
- 6 来場者数 県民、みどりの少年団など1,000人

7 開催概要

◇記念式典(10時から)

- ・オープニング 和太鼓演奏(奥日野源流太鼓)
みどりの少年団 団旗行進

・表彰

○県植樹祭テーマ

- 最優秀賞：桃木 万智さん(鳥取市在住)
- 優秀賞：芥島 慎太郎さん(境港市在住)

○鳥取県美しいもりづくり功労者知事表彰

- 西村 良夫さん(鳥取市)
- 智頭町山形財産区議会(智頭町)
- 徳岡 大勝さん(北栄町)
- 伯耆町豊かな森づくり実行委員会(伯耆町)
- NPO法人フォレストアカデミージャパン(日南町)

- ・森林・みどりへの想い発表
日南町立日南小学校みどりの少年団代表ほか

・代表記念植樹

◇参加者植樹(11時から)

シバグリ、ヤマザクラ、イロハモミジを植樹

◇自然・木にふれる催し(13時から)

- ・木工教室
- ・出立山森林散策会

◇その他

- ・日野地区特産物等の販売、緑化苗木無料配布
- ・森林環境保全税、とっとり共生の森、J-クレジット、県産材需要拡大への取り組み等PR
- ・第64回全国植樹祭メモリアル展示

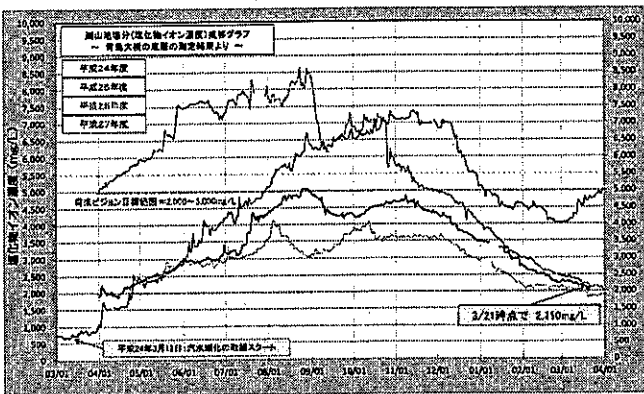
平成27年度 第5回 湖山池会議の開催概要について

平成28年4月21日
水・大気環境課
河川課
水産振興局水産課

3月25日（金）に平成27年度5回目の湖山池会議を開催したので、その概要を報告する。
（出席者：県 野川統轄監ほか関係部長、市 羽場副市長ほか関係部長）

1 平成27年度の水質状況報告

塩分濃度	・H26年度に引き続き、年間通じて将来ビジョンに定める2,000~5,000mg/Lの範囲で管理することができた。
水質指標	・近年3年間のCOD、全窒素、全りん値は、下降傾向で推移しH27年度は汽水化後で最も良好な値となった。 ・ただし、全りん値は依然として高めで推移 → 夏季の貧酸素時に発生する底質からの溶出が主要因と推察している。



区分	H25年	H26年	H27年	ビジョン計画 目標値
COD	7.9	7.0	5.7	5.5 mg/L 以下
全窒素	1.20	0.87	0.75	0.60 mg/L 以下
全りん	0.190	0.120	0.100	0.066 mg/L 以下
透明度	0.75	0.79	0.83	1.0 m以上

2 平成28年度の水質管理方針

有識者で構成する環境モニタリング委員会の助言等を踏まえ、次の方針とすることを決定した。

塩分管理	○ 春季は、可能な限り低値で推移させる。 ○ 夏季は、溶存酸素の確保に最大限配慮しつつ、盛夏の貧酸素化への対応に備えて、3,000mg/L台での管理をめざす。
水門操作	○ 夏季はH27年度と同じ水門構造で運用する。（舟通し水門での切欠操作） → 溶存酸素量を監視しながら、きめ細やかな水門操作を実施する。 ○ 水門の部分改築に着手する。
水質汚濁の原因分析	○ 水質汚濁等の原因究明に関する調査の拡充と結果分析を進める。

3 平成28年度の主な事業についての報告

県・市の関係部署が予定している平成28年度の主な事業概要を報告

県・生活環境部 （水・大気環境課、衛生環境研究所）	・水質観測ほか各種環境モニタリングの実施 ・ビオトープの造成検討（環境モニタリング委員会と連携）
県・県土整備部 （河川課、鳥取県土整備事務所）	・水門部分改築工事 → 本年3月から準備工事（仮設）に着手、10月以降に本体工事着手予定（来年5月完成予定） ・覆砂の試験施工と効果検証・ヘドロの浚渫（福井地区）
県・水産振興局 （水産課、栽培漁業センター）	・魚介類のモニタリング（コノシロ斃死原因の調査等） ・シジミ増殖の推進（覆砂による漁場拡大、貝毒等の検査体制の強化）
市・環境下水道部 （下水道企画課、生活環境課）	・周辺下水道の整備推進 ・住民との意見交換会、湖山池アダプトプログラム

とっとり・おかやま新橋館の運営状況について (H28年1月～3月)

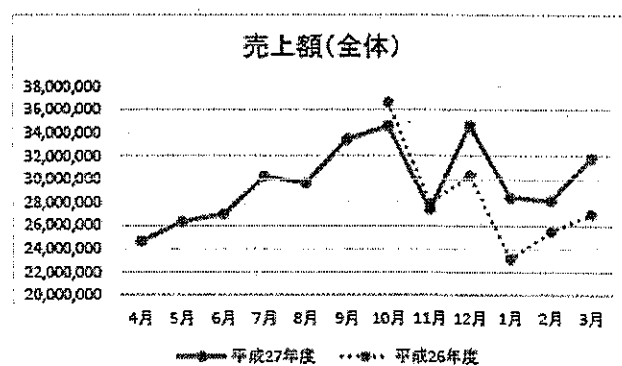
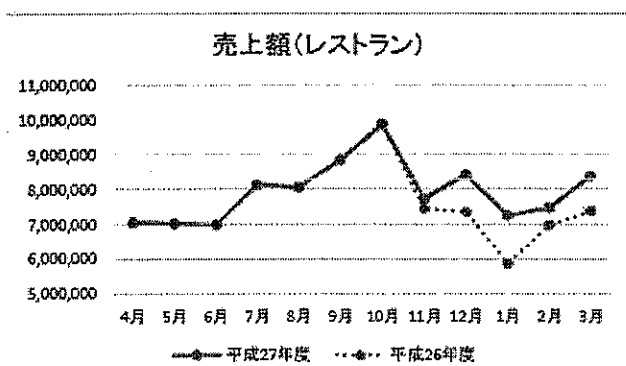
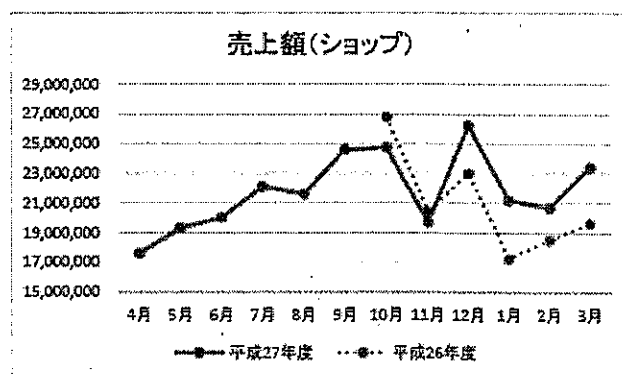
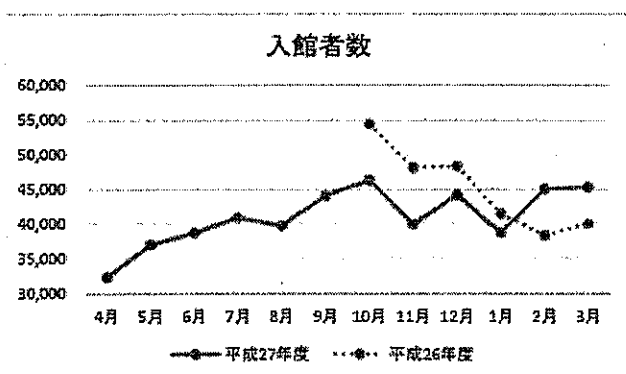
平成28年4月21日
東京本部
販路拡大・輸出促進課

鳥取県と岡山県の共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」の平成28年1月から3月までの運営状況について報告します。

- 1 入館者数 129,166名(対前年比108%)
※開店からの入館者数771,768名

2 売上金額

	売上金額(対前年比)	客単価(対前年比)
ショップ(物販)	65,323 千円(118%)	1,583 円(107%)
レストラン(飲食)	23,112 千円(114%)	1,788 円(110%)
計	88,435 千円(117%)	—



※平成26年9月は、開館日が少ないため、未記載。(平成26年9月28日オープン)

平成27年度(H27.4～H28.3)売上金額

ショップ(物販)	レストラン(飲食)	計
261,245 千円	95,241 千円	356,486 千円

3 取扱品目数 ※H28.2月末現在

鳥取県:915品目(生鮮品 89品目、加工食品 631品目、非食品 195品目)
岡山県:870品目(生鮮品 53品目、加工食品 733品目、非食品 84品目)

4 催事スペース等の利用日数及び主なイベント

(1) 利用日数(開館日数88日)

	利用日数(対前年比)	うち鳥取県関連(対前年比)
プロモーションゾーン(1F)	73日(100%)	52日(124%)
催事スペース(2F)	62日(109%)	29日(107%)

(2) 主なイベント

- ・中国四国アンテナショップ連携イベント「ご当地珍味グランプリ」(1/20~2/2)
9県の「イチオシ珍味」の中から投票でベスト3を決定する珍味グランプリを開催し、珍味と共に地酒を紹介するオープニングイベントをとっとり・おかやま新橋館催事スペースで開催(1/20)し、多くの来場者で賑った。
- ・鳥取・岡山広域観光協議会による鳥取県・岡山県合同の食と観光のPR(1/30)
多くの来場者があり、「両県へ行ってみたい」との声を多くいただき、誘客へ繋がるよい機会となった。
- ・とっとり移住休日相談会(2/20)
鳥取県への移住や就職、転職に関する相談会を開催し、予約なしの相談者も多く、情報収集のよい機会になっていると好評であった。
- ・水木しげる記念館特別展(3/7~8)
昨年11月30日にご逝去された水木しげる先生の業績を偲び、水木しげる記念館の出張特別展を開催したが、「定期的に開催してほしい」、「境港や水木しげる記念館に行ってみたくなった」等の声をいただき、大変好評だった。
- ・鳥取県産きぬむすめ3年連続特A取得記念イベント(3/22~3/31)
鳥取県産米きぬむすめの認知度向上を図るため、きぬむすめの量り売りや試食等を行った(3/22)。レストランでも、鳥取県産きぬむすめを提供し(3/23~3/31)、きぬむすめの美味しさを実感してもらえるよい機会となった。

5 観光・移住コーナーにおける相談実績

	相談件数(対前年比)	うち鳥取県関連(対前年比)
観光・移住相談件数	315件(122%)	183件(145%)

※利用者の声

- ・市販のガイドブックにはない情報を得ることができる。
- ・年金額はどこの県でもらっても同じなので家賃や物価が安く、美味しい食べ物や温泉がある鳥取への移住に興味をもっている。

6 ビジネスセンターの長期利用契約件数

13社14ブース利用(うち鳥取県5社6ブース)

7 チャレンジ商品(県産品のテスト販売)

15社33品目がチャレンジ商品として出展

(アンケート数 116件、アンテナショップ定番化につながった商品11点(因幡の塩鯖麹漬(とっとり・因幡の塩鯖を考える会)、なすの糲漬(株)三善)、山カレイの干物(合同会社ippo)ほか)

8 マスコミへの露出

テレビ 1件、新聞 11件、雑誌等 3件

9 4月以降のイベント(予定)

- ・アンテナショップスタッフによる郷土料理の料理教室(4/23, 24)
- ・鳥取県出身の落語家・立川らく人による寄席(4/28)
- ・1Fでのソフトクリーム販売スタート記念キャンペーン(4月末~5/8)
- ・平日ナイター移住相談会(5/18)

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成28年4月21日
水産振興局水産課

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	備 考
水産課	境漁港高度衛生管理型市場整備工事(建築) (新築:トラックスケール・3号上屋)	境港市 昭和町	松本・ファイデア特産建設工事共同体 代表者 有限会社松本組 代表取締役 松本雄次	439,560,000円 (設計額 450,524,160円) 落札率97.6%	平成28年3月31日 ～ 平成28年12月18日	平成28年3月30日	トラックスケール 2基 新設 検査室 2棟新築 3号上屋 改修 屋根構造部材の全面更新、橋屋の劣化防止措置 防鳥ネット設置	制限付 一般競争入札 2社 平成28年3月23日入札

